



情報メディアの利用の仕方は 大人が手本を！

前号で「情報メディアとどう付き合うのか」という「みんなで教振！5か年プラン」の全県共通課題に関連して、「ゲームをやりすぎると脳が壊れる」という講演会から学んだショッキングな内容をお知らせしました。

さて、これまで子ども達の情報メディアとの付き合い方として、「情報モラル」やその利用の時間による「生活リズムへの影響」などについて話題にしてきましたが、最近子どもだけではなく、大人の利用の仕方によって日常生活に大きな影響を与えるという情報も散見されるようになりました。その1つが、「歩きスマホ」による交通事故等の多発です。これは文字通り、歩きながらスマートフォンを操作しているため、周囲の危険に気付かず事故に遭ってしまうというものです。

「歩きスマホ」による事故が多発！

5月に女子大学生が品川区の駅ホームから転落し、走行中の電車にはねられ亡くなりました。警察の発表によると、この学生はイヤホンを付けスマホの画面を見ながら、ホームを横切るように歩いていたとのこと。また、6月には、神奈川県藤沢市の駅のホームで高校3年の女子生徒が「歩きスマホ」をしていてホームに入ってきた電車と接触し、頭を打つ軽いけがをしたそうです。

この「歩きスマホ」が原因の県内の事故データは得られませんでした。東京消防庁によると平成27年までの過去5年間に、「歩きスマホ」が原因の事故によって救急搬送された人数は172人で、年々増加傾向にあります。

年代別（図1）でも10代～20代が約3分の1を占めていますが、中には9歳以下の子どもも見られます。事故の種別（図2）は人や建物などに「ぶつかる」人が46.5%、「ころぶ」人が27.9%、駅のホームなどから「落ちる」人が22.7%という割合です。

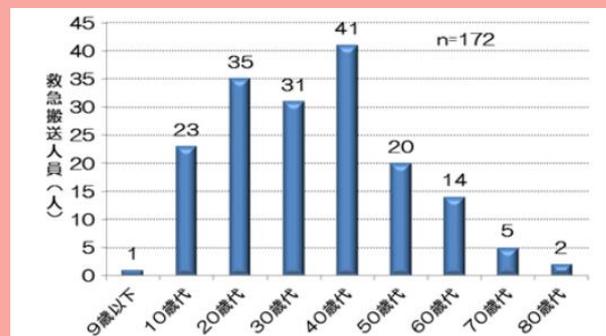


図1 年齢区分別の救急搬送人員（H23～27）

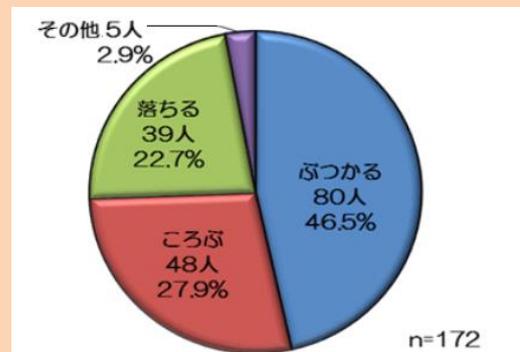
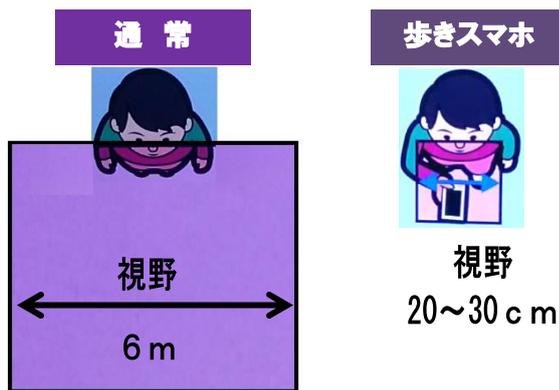


図2 事故種別ごとの救急搬送人員（H23～27）

こうした中、7月にはスマホの位置情報を活用したゲームアプリ「ポケモンGO」が配信され、爆発的な人気となりました。筑波大医学医療系徳田克己教授が、東京都秋葉原周辺のJR駅3箇所で行った実態調査によると、ゲーム配信日の翌日の駅舎口周辺で「歩きスマホ」をしていた人は4人に1人に迫る24.1%にのぼり、昨年7月に同じ場所で調査した際の7.3%に比べ3倍以上に増えていたということです。また、横断歩道でも19.3%（昨年6.7%）にのぼったそうです。

通常この「歩きスマホ」は1人でやるものですが、この「ポケモンGO」の場合、2～3人が横に並び、お互いの画面を覗き見しながら歩く姿が見られ、複数の人が「壁」になって歩くので、他の人が避けるのは難しく、交通弱者（障がい者や高齢者・小さい子ども・妊婦等）と言われる人たちにとってはまさに「動く凶器」であると徳田教授はその危険性を訴えておられます。（毎日新聞 8月17日掲載記事より）

また、民放テレビ局の番組の中では、「歩きスマホ」をした場合の視野について実験をしておりましたが、通常歩行中の人の視野は約6mあるのに対して、「歩きスマホ」の場合はたった20～30cmしかないので非常に危険であるから、自分のためにも周囲の人のためにも絶対に止めるようにと訴えていました。



数年前までは、自転車などを運転しながら携帯電話で話すことの危険性が強く叫ばれていましたが、今やそれに加えて「歩きスマホ」の危険性を訴える必要があります。

大人の「情報メディア」との付き合い方は？

私がとても残念であり、強く感じていることは、大人の「歩きスマホ」による事故発生の割合が高いことです。（前頁図1）「歩きスマホ」の事故で最も搬送されているのは、40代の大人で、子ども達からみれば紛れもなく親世代です。これでは、子ども達に示しが付きません。

これまで、子どもの「情報メディアとの上手な付き合い方」を考えて来ましたが、我々大人も一緒に考える必要があります。

実は以前勤務していた学校の運動会でこんなことがありました。子どもの応援に来ていたある家



族のお父さんが、子ども達の競技を見ずに、夢中になってゲームをしている姿を目の当たりにしたのです。その時私は咄嗟に、「お父さん、次は〇〇君の番ですよ。」と声をかけましたが、「今、いいところだから。」と言って手を止めようとはしませんでした。また、ファミリーレストランに食事に出かけたときには、隣のテーブルで5歳ぐらいの女の子が一生懸命お母さんに話しかけているのに、そのお母さんはスマホに夢中になって、「今忙しいから、黙って食べなさい。」ときつく言って相手をしないという場面に遭遇しました。せっかく、我が子ががんばっている様子を見る機会であったり我が子と食事をしながらコミュニケーションをとる場であったりするはずなのに、そして子どもにとっては親との大切な時間となるはずなのに、スマホやゲームに夢中になっている大人の姿を見てとても残念に思いました。

大人が子どもの手本になることが必要です！

これまでの教育振興運動の実践の中で、「ノーテレビデー」といって、「テレビを消して家族のふれあいを大切に作る時間を作りましょう。」という取り組みがありました。今、それぞれの家庭はどうなっているのでしょうか。例えば夕食後、家族それぞれが、テレビを見たり、スマホをいじったりして会話のない状態が普通になっている家庭はないでしょうか。ただでさえコミュニケーションをとることが苦手な子ども達が増えています。スマホやゲームのやり過ぎによって生活リズムが乱れたり、依存症の傾向が出て不登校になったりしてからは、回復させるのが大変です。利用時間など必要最低限のルールを決め、家族とのふれあいの楽しさを味わわせることを大切にしてほしいと思います。それには、まず大人が子どもの手本となって家族と接し、一歩外に出たら「歩きスマホ」などは慎み、安全に配慮した暮らしを意識していきたいものです。

（所長 佐藤 寛）

岩手県では、平成17年度から平成26年度までの10年間、「みんなで教振!10か年プロジェクト」の一環として、「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」を全県共通課題に位置付けて取り組み、家庭学習時間や読書冊数の向上が図られました。

しかしながら近年、スマートフォンやタブレットパソコンなどの新たな情報メディアの急速な普及により、児童生徒の学力や体力の向上、基本的な生活習慣や人間関係に与える様々な影響が懸念されるようになってきました。これらの情報メディアは便利な情報ツールである反面、人の心を傷つけたり、犯罪や事件に巻き込まれたりする危険性もあります。実際に情報メディアに関連した様々なトラブルも増えており、緊急性の高い教育課題となっています。

そこで、平成27年度から平成31年度の5年間「みんなで教振!5か年プラン」に取り組む中で、「情報メディアとの上手な付き合い方」を新たな全県共通課題とし、各市町村や各実践区で取り組みを行っています。それは、バーチャルな情報メディアに付き合っていくためにも、従来から各実践区で行われている地域の教育課題に対応した取組を充実させ、生身の体験や人との交流といったリアルな活動により豊かな心を育てていくことを目指すものでもあります。

1年目である平成27年度は、周知啓発と実態の把握に取り組むことを提唱し、各実践区において「実態調査」や「情報メディアの学習」に取り組んできました。その取組を通して「大人自身の学び」と「家庭や地域でのルールづくり」が大切であるという共通の意識が芽生えてきました。

岩手県立生涯学習推進センターでは、家庭や地域の大人の学びを充実させ、学校・家庭・地域が連携した情報メディアにおけるルールづくり等の取組をさらにバックアップするため、各実践区や公民館、地区センター等の要請に応じて情報メディアの危険性や情報モラル、メディア依存、学校・家庭・地域それぞれの役割などについての「情報メディア」の講話を行っています。8月末日時点で52件の依頼があり、既に19箇所へ赴き、「情報メディア講話」を行っています。

講話は講義型のほか、実際にスマートフォンやタブレットを操作しながら、その利便性と危険性などを考え、学んでいただく体験型の二種類があります。



情報メディアの便利さと危険性について親子で学んでいます

「情報メディア」の講話に参加した皆様からは、「情報メディアの怖さや危険性について学んだ」「親子のコミュニケーションが大切である」「学校・家庭・地域が連携してルールづくりに取り組むことが必要」などの感想をいただいております。確実に大人の学びにつながっていると感じます。



教育振興運動実践区や家庭教育学級などで「情報メディア」の講話をご希望の場合は、こちらまでご相談下さい。

まなびネットいわて

検索



教育振興運動や情報メディアに関する資料や情報も満載です!

岩手県立生涯学習推進センター TEL0198-27-4555



今回は、住田町教育委員会から、特色ある事業について寄稿いただきました。

住田町の森林学習

住田町では、幼児から一般まで、各年代に応じた「森林環境学習」を、保育園・小学校・中学校・高校と町教育委員会・林業担当課が密接に連携して事業展開しています。

保育園児を対象とした「森の保育園」、小学校1・2年生を対象とした「秋の種山学習」、同3年生では「森・川の生きもの観察」、同4年生では「水生生物調査」、同5年生では「製鉄体験」、同6年生は「砂金採り体験」、中学校1年生を対象とした「種山体験学習」、同2年生では「間伐体験」、同3年生の「木工団地見学」を毎年継続して実施し、高校生が「森の保育園」をサポートします。また、一般向けの「種山散策会」や「目指せ！森の達人（マイスター）講座」を実施しています。

5年生の「製鉄学習」は、「住田の森林のおくりもの」として、総合的な学習の時間を20時間以上使って毎年実施しています。

まずは導入の授業。一見何の関係も無いように思える「森林」と「鉄」が、実はとても深い繋がりがあることを学びます。

続いて、大正初期に日本第4位（民間では第3位）の鉄の生産量を誇った栗木鉄山（岩手県指定史跡）などの歴史から、町内でも古くから製鉄が行われてきたことを学びます。

次に、住田町のケーブルテレビ「すみたテレビ」のスタッフから、ビデオカメラの使い方、インタビューの仕方、ニュース原稿の書き方など、取材の仕方を教えてもらいます。

次はたたら製鉄の準備。子どもたち自ら炉をつくり、鉄鉱石を砕き、その様子を、ビデオカメラを手に取材も行います。



そしてたたら製鉄当日。真っ赤な炎が吹き上がる炉に、鉄鉱石と木炭を投入し続け、最後に炉を解体して鉞（けら）と呼ばれる鉄を取り出します。

続いて鍛冶体験。鉞を再び熱し、鉄製品を作ります。昨年は鉞を作ることができました。

体験の締め括りは栗木鉄山跡の見学です。長時間にわたり製鉄体験を経験してきた彼らだからこそ、より深く心に感じられるものがあります。



最後に、今まで経験したことを、ニュース原稿という形でまとめ、自らアナウンサーとなって原稿を読み上げます。そして、子どもたちが取材した映像をすみたテレビに編集していただき、ニュース番組として町内で放送しています。

住田の歴史や文化を学び、体験を通して理解を深め、まとめた成果を町民の皆さんへ還元するという、とてもよい形の学習となっています。

住田町の歴史や文化を学び、体験を通して理解を深め、まとめた成果を町民の皆さんへ還元するという、とてもよい形の学習となっています。

住田町の森林環境学習の取り組みや、5年生の「住田の森林のおくりもの」のニュース番組は、住田町のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



http://www.town.sumita.iwate.jp/douga/tatara_201604.wmv